禁 転 載 複 製
当 日 配 付
試験終了後公開

D13

「中央職業能力開発協会編」

令和７年度 技能検定
３級 家具製作 学科試験問題
(家具手加工作業)

1. 試験時間　１時間
2. 問題数　30題
3. 注意事項
   (1)　係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2)　答案用紙(真偽法用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3)　係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。
   (4)　試験開始の合図で始めてください。
   (5)　解答の方法(真偽法)は次のとおりです。
   イ.　一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
   ロ.　答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
   ハ.　答案用紙の解答欄は、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄は100題まで解答できるようになっています。
   (6)　電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7)　携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8)　試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9)　試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10)　試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11)　試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

1　日本産業規格(JIS)によれば、事務用机の高さは規定されていない。

2　差尺とは、机の甲板上面といす座面の座位基準点との鉛直方向の寸法差である。

3　学習用机のうち片袖机は、家具の商品的な分類として、箱物家具に分類される。

4　家具の形状は、平面図と側面図により図示することができる。

5　日本産業規格(JIS)によれば、見える部分の外形線を表すのに用いる線の種類は、太い実線である。

6　尺度とは、対象物の実際の長さ寸法に対する原図に示した対象物の長さ寸法の比のことである。

7　木材加工用機械の刃部の近くにあるのこ屑や端材を取り除くときは、素手で行う。

8　木工機械を使用した部材の木取り作業中において、加工した部材が多いときは、機械周辺に高く積み上げて作業を続けるのがよい。

9　ベニヤとは、単板のことをいう。

10　突き板とは、一般に、木材を薄く加工した板のことで化粧材として用いられる。

11　板目材には、木表と木裏がある。

12　あり形吸付き桟の工作は、乾湿による板材の伸縮に伴う反りを防止する方法である。

13　日本では、木材を天然乾燥した場合の平衡含水率は、8～10%である。

14　絶乾材(全乾材)とは、自由水がなくなり、結合水が残っている木材のことをいう。

15　木材の板目方向と柾目方向の乾燥による収縮率は、同じである。

16　反り台かんなは、仕上げ材の平面を削るのに最も適している。

17　胴付きのこの歯は、両歯のこの横切り歯よりもあさりが小さく歯形も小さい。

18　直角木口台とは、木口を直角に削るときに使用するジグをいう。

19　玄能の球面側は、くぎの打ち終わりや木殺しする場合に用いる。

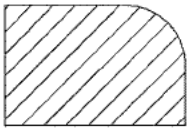
20　自動一面かんな盤で部材の厚みを決める場合、定盤を下げてから上げて位置決めする方がよい。

21　手押しかんな盤は、板材などのむらを削って基準面をつくるのに使用する。

22　ほぞの長さは、一般に、ほぞ穴の深さと同じにするのがよい。

23　三枚組接ぎは、板の幅を３分割した角部（かどぶ）の組接ぎ手である。

24　次図の面の種類は、ぼうず面である。



25　家具の部材の接合方法には、ほぞ接ぎ、だぼ接ぎ、留め接ぎ、相欠き接ぎ等がある。

26　切削角(かんなの仕込み角度)が大きくなるにつれて、切削抵抗は増大する。

27　かまち組の組立てにおいて、胴付き部に接着剤を付けると余分な接着剤が出るため、ほぞ穴のみに接着剤を付けるのがよい。

28　ラッカー塗料は、一般に、ポリウレタン樹脂塗料よりも乾燥が遅い。

29　面一（つらいち）仕上げとは、同一平面に仕上げることをいう。

30　木材に塗装する目的は、木材の強度を高めるためである。